

## Background and Process

### 幸せを届ける黄色いポスト

幸せを届ける黄色いポストは、令和6年に市が日本郵便株式会社と包括連携協定を締結したことを機に、市役所本庁舎前に誕生しました。従来からあった赤いポストに市職員らが、黄色いペンキを手作業で塗り、完成したポスト。完成後には、市制10周年記念の時に市民の皆さんからお預かりした「10年後へのメッセージ」を市制20周年記念事業として発送し、「幸せ」を届けました。

ポストにペンキを塗る長谷川市長▶



### 小説の誕生といぬじゅん氏

小説『幸せの黄色いポスト』の執筆を手掛けたのは静岡県在住の小説家・いぬじゅん氏。平成26年に『いつか、眠りにつく日』でデビュー後、恋愛や生死をテーマにした作品で人気を集めています。本小説の執筆が決まると、いぬじゅん氏はイメージを膨らませようと関係者の案内で、菊川市を探訪。昨年4月、市内に実在する地名やスポットが多数登場する小説が誕生しました。



▲プラザきくるを訪問 ▲トークイベント集合写真



### 小説から続く、物語。

小説発売を記念し、いぬじゅん氏が市長と語るトークイベントの開催や「茶畑の中心で愛を叫ぶ」へのゲスト出演など、本小説に関連したイベントが開催されました。さらに、新たな魅力発信を目指し、本紙で紹介した看板設置などの聖地化が進められています。また市民団体による舞台公演の実施や映画化に向けた動きも生まれるなど、物語は今も広がり続けています。

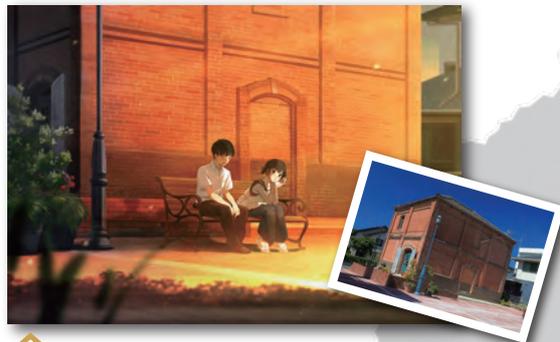
中学生二人芝居『茶畑に愛を叫ぶ』▶



あなたも、このまちで  
物語の続きを  
紡いでいきませんか？ ✨

# あの場面が、 看板になって現地に！

看板の設置場所とイラストを紹介します



### 菊川赤レンガ倉庫 (第1章)

高校2年生の優衣の元に届いた10年前の手紙。差出人は片思い中の彼…？夕焼けに染まる赤レンガ倉庫を背景に、青春のときめきがよみがえります。

看板設置場所 赤レンガ倉庫東側広場



### 幸せを届ける黄色いポスト (第3章)

全ての章で物語の鍵となる市役所本庁舎前の黄色いポスト。3章では、10年前の娘から届いた手紙を受け取る心揺さぶる場面がイラストに。

看板設置場所 菊川市役所本庁舎前バス停付近  
黄色いポストの横



現地の看板にはイラストと併せて小説本文の一部を掲載。ぜひ、物語の世界に浸ってみてください。

### オリジナル看板

つじこ先生/イラスト

「聖地巡礼プロジェクト」として、ガバメントクラウドファンディング®を募り、完成したオリジナル看板。イラストは、本小説のカバーイラストを描いている「つじこ先生」が手掛けました。

